

2018年2月8日

日揮株式会社

2018年3月期第3四半期

テレフォンカンファレンスにおける質疑応答（2018年2月8日開催）

※テレフォンカンファレンス開催日（2018年2月8日）時点の情報に基づく内容です。

質問	回答
2018年3月期第3四半期（10月～12月）での粗利益率の水準について確認させて欲しい。	第3四半期（10月～12月）での粗利益率は7.2%であった。通期業績予想上の粗利益率7.1%に対し、ほぼ想定通りに推移しており、遂行中の各案件に関し、採算面で特段のプラスもしくはマイナスの変化はなかった。
2018年3月期通期の売上高について、予想値の6,800億円を超える可能性はあるか？	複数のコストインバース契約のプロジェクトにおける追加工事の影響等により、第3四半期までの売上高は、通期業績予想を若干上回るペースで推移している。しかしながら、通期見通しに関して、現時点では明確にお伝えできる段階にない。
米国におけるEPCプロジェクトに関し、直近では同業他社が採算悪化に関する発表を行っている。当社については、米国で遂行中の案件について採算悪化の懸念はないか？	当社が米国で遂行しているエチレンプロジェクトは、昨年末にメカニカルコンプレッションを達成した。また、昨年夏にテキサス州沿岸部に上陸したハリケーン「ハービー」により発生したスケジュール遅延およびコスト増については、顧客が費用負担することで合意している。従い、本案件が再び採算悪化するようなことは想定していない。
2018年3月期第4四半期の受注期待案件に関して教えて欲しい。	昨年12月に受注したインドネシア・ガス処理プロジェクトの受注額計上は、第4四半期を予定している。現状、国内・海外で有望な案件が複数あり5,000億円台の受注が見込める状況となっている。通期受注目標7,500億円の達成に向け、さらに受注を積み上げるべく全力を上げている。

<p>プラント EPC マーケットに関し、徐々に環境は良くなっていると捉えているか？</p>	<p>足元の原油価格が1バレル60ドルを超えるなか、案件数が増えてきているという印象であり、2019年3月期に向けて、環境は改善している。また、北米の大型LNG案件についても動きが出てきている。</p>
<p>LNG カナダ社が計画する LNG プラント建設プロジェクトに関し、客先がコントラクターをショートリストしたとの発表を行った。日揮グループもショートリストされている。来期(2019年3月期)中のEPC受注を想定しているか？</p>	<p>LNG カナダ社による LNG プラント建設計画に関しては、客先は2018年中にコントラクターの選定を行うと発表している。当社としても、2018年中に実現することを期待している。</p>
<p>LNG カナダ社による LNG プラント建設計画について、ランプサムターンキー契約を前提に EPC 契約の交渉が進行していると客先は発表している。 北米におけるランプサムターンキー契約でのプロジェクトの受注・遂行に関し、懸念はないか？</p>	<p>北米で日系 EPC コントラクター各社が苦戦しているという事実から、北米におけるランプサムターンキー契約プロジェクトの受注・遂行に対し、そのリスクについてご懸念されることは理解している。 しかしながら、当社は今回のプロジェクトでもパートナーを組むフルア社とのエチレンプロジェクトの遂行を通じ、北米におけるプロジェクト遂行について相応の知見を獲得してきた。加えて、モジュール工法の適用による現地建設工事量の低減等の工夫もしようとしている。 未だ受注していないため明確な回答が難しいが、これらの対応によって、リスクを最小化し適切に管理していくことが可能であると考えている。</p>
<p>本日付の2018年3月第3四半期決算発表と同時に、役員人事の異動も発表された。石塚社長就任後、初の役員人事の異動となるが、その特徴などがあれば教えて欲しい。</p>	<p>佐藤会長 CEO、石塚社長 COO 体制となって半年強が経過した。石塚は実務家であり、実務体制の強化を念頭に今回の人事はなされた。また、役員若返りを図る意図もある。</p>

以上